

たんぽぽだより

2019年3月号



今年度も残り1か月となりました。
保護者の皆様のおかげで30年度も無事に終わることが出来るようです。感謝しています。
ありがとうございます。

今月はこの1年を振り返ってみます。

つぼみ組は10月からたんぽぽの仲間になった子どもさんが多いのですが、1年前はまだこの世に生まれてきていない子どもさんもいます。歩けるようになり、言葉も少しずつ獲得し始めコミュニケーションが取れるようになりましたね。

つぼみの時代は真っ白なゼロからの出発 様々な経験を通して成長していく一番初めの大事な根っこ基礎のまた基礎の時代です。そう考えると気が引き締まります。

初めてたんぽぽに来られた方にお話しさせていただいている、「子育ての大基本の大鉄則」ですが、児童憲章にあります、**児童は人として尊ばれる**。という事を具体的にお話しさせていただいています。

人の一生の中でもっともたくさんの事を吸収し成長している**つぼみ世代の子ども達がどんな言葉を聞き、どんな扱いを受けてきたのかが一生を左右する**といっても過言ではないです。真っ白な状態に何を書き込まれるかが、とにかく重要なのです。

さてもも組の子ども達、実はだんだんやりにくくなってきています。1年前を思い出すと、きちんと始まる前には席について話を聞いているし、片付けだって上手にできていました。

それが今ではバラバラ一人連れてくれば他の誰かがいなくなっているし、「あっちが良かった」「こうしたかった」それぞれ自己主張始めて手に負えません(;ω;)ウッ...

でもこれってすごい事なんです。大人には「わがまま」だと見えるかもしれませんが。でもこの時期の「いやいや」や「自分で」は、**成長にとって必要なこと**なんです。自分が周りに「**受け入れられているか**」を確認している時期なのです。

この時期に、いつも理由もわからずに「ダメ!!!!」を言われていたらどうなると思いますか？想像つきますよね。自分を否定されたという思いが強くなります。それと同時にその子の基本はまず否定から始まるんだという事がだんだんと潜在意識に蓄積されていきます。

否定がその子の基本になれば、それからの子育ても、その子の人生でも扱いにくい人になるでしょうし、何か大きな問題が起きた時や、大きな決断をする時に怖くて自分で決められません。

保育サロン たんぽぽ

でも、いちいち全部その子の思うとおりにしていくと、お仕事されている皆さんは、イライラしちゃいますよね。

ですから、子どもの気持ちをすべて叶えてあげる必要はありません。まず、①聞いて②その内容や思いを言葉で返してあげてから、③出来る出来ないを話してあげるだけで、受け入れられたかが伝わります。さらに言葉の獲得も出来ます。その場合、出来る出来ないの基準をはっきりと決めておくことが大事になります。毎回違っては、子どもも混乱しますから。

ゆり組ですが、運動会まではバラバラ！運動会の練習でも広い体育館を全員があちこちに散らばって收拾がつかまませんでした。しかし、運動会を過ぎた頃から友だち同士での遊びが増えてきて、お話も聞けるようになって落ち着いてきました。ただ、少しずつ友達が減って来て自分よりも小さい子どもが多くなって来て、赤ちゃんも増えてだっこされている様子を見ると、急に赤ちゃん返りのように甘えたり、泣いたりする様子が見えてきました。ゆり組の時代の子ども達は、ある時は、しっかりして自分でできることを率先してやっていたかと思うと、ある時は急に甘えて赤ちゃんのようになって手に負えなかったり、行ったり来たりする年代なのです。

この時期はこういう『安心感の輪』の中で安全の基地⇒探索活動⇒見守っていてね、手伝ってね⇒一人でやってみよう・行ってみよう⇒ちょっと離れちゃったな⇒少し怖くなってきた⇒お母さんのところに戻ろう⇒安全の基地⇒探索活動⇒……………と、この時期は安心と探索活動と自立心と恐怖心とがぐるぐる回っていく始まりの時期なのです。年齢が上がっていけば安心の輪が大きくなっていきますが、まだ3歳の時点では小さな輪ですから『自分でしたい』と『自分で出来ない(甘えたい)』が交互にやってきます。

お母さんや、保育者が子どもにとっての安全基地・避難場所として甘えてきたときには安心できるような場所・抱きしめてくれる場所になっていると、また一人で出ていく事ができるようになるのです。そうやって安心の輪は大きくなっていくのです。

4月から新しい場所でスタートを切る子ども達もいます。新年度からは一つクラスが上がります。そういう意味では、今月は締めくくりの月です。新しい環境の中でも、しっかり自分を持って出せる子どもであって欲しいという願いを込めて、そしてさらなる成長を願っています。

今月の目標：進級することを心待ちにして楽しく過ごす

ねらい：感謝の気持ちを待って過ごす。春を感じる。

つぼみ組【0歳児】：春の自然を感じながら、散歩や戸外遊びを楽しむ。保育者、友だちとのやり取りを通して、一緒に遊ぶ楽しさをたっぷり味わう。

もも組【1歳児】：身の回りのことを最後まで自分でできることに喜びを感じる。戸外で出会う植物や生き物の発見に興味を持つ。

ゆり組【2歳児】：できることが増えたことで成長を喜び、ありがたいの気持ちを持って楽しく過ごす。

今月の保育内容

養 護

つぼみ組：健康管理に留意しながら外気に触れる機会をつくり、丈夫な体作りをする。一人一人の子どもの成長と発達の状態を確認し、来月の進級を踏まえてゆったりと過ごせるようにする。やりたい気持ちや、伝えたいことを受け止め、楽しく過ごせるようにする。

もも組：感染予防のため、一人一人の健康状態を把握し、早めの対応をする。一年間を振り返り、一人でできるようになったことを一緒に喜び自信を持てるように援助する。自己主張が強くなるので気持ちを受け止め、安心して過ごせるようにする。

ゆり組：身の回りのことを最後まで行い、達成感を味わえるようにする。新年度移行の準備から緊張、興奮しがちなので、心身の変化に注意する。

教 育

つぼみ組：自分の思いや欲求をしぐさや表情、片言で伝える。・保育者と一緒に絵本を見て楽しむ。天気が良い日には戸外で遊び、開放的な楽しさを味わう。手指を使って好きな玩具や月齢にあった遊びを楽しむ。歌や音楽を聞き、リズムに合わせて体を動かす。

(1歳以上児) 自分でズボンを脱いだりしてトイレに座ってみる。戸外に出て、体をたくさん動かして遊ぶ。楽しい雰囲気の中で自分でスプーンを使って意欲的に食べようとする。友達と同じ遊びをする中で、一緒に過ごすことや遊びの楽しさを共有する。安心できる環境の中で、身近な大人や友だちに親しみを持って、自ら関わろうとする。

(1歳未満児) 触れ合い遊びや運動遊びを通して体を動かす楽しさを感じる。・お座りや腹ばいの状態で、保育者のかかわりや補助により集中して楽しむことができる。・一定時間眠り、機嫌よく目覚める。さまざまな味を経験しながら、離乳食を喜んで食べる。・落ち着いた雰囲気の中で授乳をし、満足感を得られるようにする。優しく関わってくれる人や周囲の様子に興味を持つ。

今月の保育内容

教 育

もも組：排泄に誘う際は子どものまだ遊んでいたい気持ちを受け止めつつ、「あと一つしたら、行こうね。」など、気持ちの区切りをつけられるような言葉かけをする。戸外でチューリップやダンゴムシを見つけた際は、「見つけたね」「よかったね」と子供と一緒に発見できた喜びを感じ、自然との出会いと春の訪れを感じられるようにする。

季節の歌をリズムカルに歌ったり踊ったりして体を動かす楽しさを共有する。一年間やってきた子どもの好きな体操なども繰り返し楽しむ機会を作る。

ゆり組：食事の配膳や片付けを進んで行き、出来ることをお手伝いし、みんなで楽しく食べる。戸外遊びを多く取り入れて、体を動かし体力を養えるようにする。

自分の気持ちを素直に表し、他者の気持ちも感じるようにする。

言葉をゆっくり引き出し、子供が思いを話す心地よさを感じられるようにする。

お散歩に出かけたり、園庭で季節の変化を感じる。(つぼみ、芽、梅や桜の花など。)

自分の好きな絵本を選び、お話の世界に入る時間を持つ。



新しいスタートを切る職員です。

退職：宮崎志織（給食）結婚のため3月12日まで

真子優希(保育士)熊本への引っ越しのため3月末まで

入職：伊藤寿美子（給食） 矢野尚美（保育士）

1月～ 2月までの苦情・ご提案については、とくにありませんでした。